

ROBA NEWS



トップニュース：福井鉄道に岐阜の低床車を導入！？

最近の新聞報道にもありましたように、岐阜の低床電車 800 形が福井鉄道に導入される可能性が出てきました。岐阜の 800 形といえば 2001 年の福井駅前電車通りトランジットモール社会実験の時に借りてきたあの低床電車です。しかも導入が計画されているのは 2 両。他にも岐阜から何編成かの車両導入が検討されています。低床電車が導入されれば、ROBA の応援している「スマイルトラム」の実現に一步近づく可能性があり、福井の公共交通は画期的な利便性向上に向かって一步踏み出すこととなります。また、福武線全線のホーム切り下げという課題がありますが、これはこれでサンドームの近くや鯖江市北部の新興住宅街、武生市北部の新興住宅街等に小さなコストで駅を新設することが可能になるというメリットも出てきます。さらに、大名町交差点の福井駅前 武生方面短絡線の実現も視野に入り、大きな時間短縮効果も見込めます。今年、福武線は LRT に一步近づくかもしれません。

(文：清水)

活動報告

- 1 月 11 日 1 月運営会議
- 1 月 12 日 中部運輸局ヒアリング
- 1 月 19 日 まちづくり懇談会「まちなか駐輪場の適正配置と放置自転車について」
- 1 月 22 日 「北陸をつなぐ公共交通シンポジウム相談会」参加
- 1 月 23 日 幹事会
- 1 月 28 日 1 月例会

今後の予定

- 2 月 7 日(火) 2 月運営会議
- 2 月 16 日(水) まちづくり懇談会「まちなか駐輪場の適正配置と放置自転車について」
- 2 月 25 日(金) 2 月例会
- 2 月随時 LRT 部会
- 2 月随時 バスマップ部会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

どうする？鉄道の未来

鉄道まちづくり会議・編 緑風出版

1800 円 + 税 ISBN4-8461-0419-2

書評を書くのにこれだけ迷った本は初めてです。一つには、ROBA の皆さんが既にたくさん読んでいるだろうから。そして、主著者のひとりの清水さんの目に確実に触れるのだから。

この本は、鉄道まちづくり会議編とはいっても、上岡直見、清水省吾共著という臭いがぷんぷんしていて、ROBA の会で議論してきたことそのままなので、理論の限界も何も自分の書いた本のようにわかってしまってこそばゆい本でした。清水さんには、日本の公共交通と ROBA の会の発展のためにももっと有名になって欲しいのに、著者に名前が出てこないのが残念です。素人にもかきやすいように丁寧な言葉で書いてあるのですが、それが却って運動本の Q アンド A によくある「騙されているような感じ」を受けてしまいます。どこかの政党のパンフレットのように。

揮発油税を道路以外に使わせないゴリゴリ論者と、鉄道派の公開討論でもやりたくなくなってきました。私は後者なら立派な論客である自信はあるのですが、前者として論陣を張る自身はありません。仕事より遊びのほうが好きということですね。ちなみに 116 ページの写真には私も写っていました。

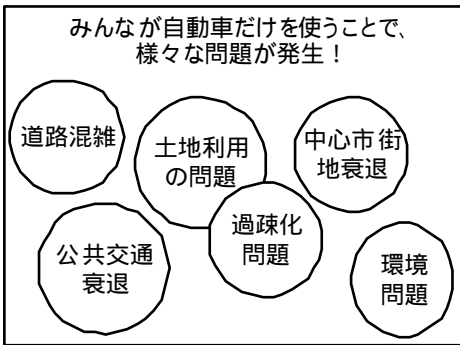
(美濃部)

モビリティ・マネジメントとは？

モビリティ・マネジメント(MM)とは？

現在、ほとんどの都市において、みんなが自動車だけを使うことにより、様々な問題が起きています。道路混雑、公共交通の衰退、中心市街地の衰退や環境問題などです。

道路を造るだけでは交通問題は解決せず、土地利用（都市の在り方）と交通（道路、公共交通、歩行者など全て）を総合的に考えていく必要があります。



しかし、それだけでは足りません。クルマを規制すると市民の反発が強く、公共交通を便利にしたところでクルマの便利さにはかないません。

市民の協力が大事なのです。市民ひとりひとりが自分の交通について、「今日はクルマで行こう」とか「今日はバスで行こう」とか、状況によって考えるようにしていくことが必要なのです。これを行っていくのが「モビリティ・マネジメント」です。

「モビリティ・マネジメント」とは、簡単に言うと「ひとり一人の移動を対象とした交通管理」です。モビリティ・マネジメント(MM)と交通需要マネジメント(TDM)の違いをまとめると、下の表のようになります。

	モビリティマネジメント	交通需要マネジメント
対象	ひとり一人の移動(モビリティ)、および、その背景にあるひとり一人の暮らしや意識	交通需要(交通量、旅客数などの集計量)
目的	渋滞緩和、移動性の確保、適正な土地利用の誘導、歴史・風土の保全等	渋滞緩和
施策概要	自発的な行動変容のためのコミュニケーションを中心とした交通施策	課金や規制による行動変容の誘導施策

モビリティ・マネジメントの方法は？

実際には、モビリティ・マネジメントにはどのような手法があるのでしょうか。

・事実情報提供法

クルマのデメリット、公共交通の情報(のりのりマップなど)を与え、客観的にクルマと公共交通を見直してもらい、自分の移動を考え直すきっかけとしてもらう方法です。

・行動プラン法

アンケートにより実際にクルマ利用を抑えるための具体的なプランを考えてもらい、実行するように促す方法です。

今回私の修士論文では、以下のようなアンケートで実際にこの方法を試してみました。

問2 通勤・通学の場合、次のような「かしこい電車の使い方」ができるかもしれません。

a) 飲酒を伴う会合が予定されている時は、クルマの代わりに電車・バスを使う
 b) 天気の良い日は電車・バスを使う
 c) 毎月1日、16日のノーマイカーデーぐらいは電車・バスを使う
 d) 雪の日は電車を使う
 e) その他

(1) ご家族の中で、通勤・通学で上のような「かしこい電車の使い方」ができるようなものはありますか？

① できそうなものはある → どなたができていますか？(例：お父さん・お兄さん)
 2. まったくない → 問3へ

(2) どんな事ができそうですか？(できそうなものを、上のa)~e)の中から全て選んでください。
 a) b) c) d) e) その他 ()

(3) 具体的に、どのようにしますか？【記入例】を参照して、ご自由にお書きください。

(4) 上のような行動を、やってみようと思いませんか？
 1. 全く思わない ② 少し思う 3. 思う 4. 是非やりたい

・アドバイス法

アンケートにより1週間の移動実態を全て聞き出し、より環境に優しい移動方法を教え、説得します。例えば、最初から環境に優しい移動をしていれば褒めてあげ、クルマを使っている人にはもっと環境に優しい行動をするように呼びかけます。

他にも、いくつか方法がありますが、クルマの適正利用を呼びかけていくために心理学の手法を応用したものが多です。

・最後に

このような交通施策の試行的実施においてもROBAの会の「のりのりマップ」が活用されました。今後は従来の交通施策に加えてこの様な施策も増え、マップの重要性も高まってくるだろうと思います。(川口)

参考文献：

社会的ジレンマの処方箋 藤井聡・ナカニシヤ出版
 モビリティ・マネジメントの手引き 藤井聡・土木学会

久しぶりの名古屋。全通した地下鉄環状線で中部運輸局へ。(参加者：内田、清水、林)

いい場所にあつて、トイレからは、いや廊下やエレベーターホールからは、右手に名古屋城を見下ろすようになっていて、左手にはJR名古屋駅のツインタワーが見えた。

<ヒアリングの骨子>

- 1 - 「公共交通の円滑な乗り継ぎ」を図るための取り組みについて
 - ・乗り継ぎ行動の促進活動(『まち色めぐり』の発行)
 - ・田原町駅での乗り継ぎ及び直通運転(福井鉄道、えちぜん鉄道の相互乗り入れ、乗継切符)
 - ・福井県立大学へのルート(バスの直通と鉄道・バス乗り継ぎ)
- 1 - 「交通事業者と地域のタイアップ」について
 - ・「駅からのまちづくり」をROBAの事業として推進中
 - ・「協働施策交流会」の提案、将来はLRT推進協議会に
 - ・『バスでんしゃねっと・ふくい』を県・バス協会・NPOで、協働作成し運営している
- 2 - 地域の公共交通の維持・改善をトータルで考えるための仕組みについて
 - ・ROBAの会が協議会委員として継続参加、「福井鉄道福武線活性化検討協議会」
 - ・ROBAの会が参考意見の提言、「えちぜん鉄道・福井鉄道相互乗り入れ検討会議」：協議会の運営、人選の仕方について、実効性のあるものにすべき
- 2 - シームレスな公共交通の実現のための調整の仕組みづくりについて
 - ・「第2回全国バスマップサミット」で『ホジロバ交通』の提案：総合的な交通の取組みが必要
- 2 - 行政支援の実施について

中部運輸局から提示された3項目は的を得ており賛成・推進を表明

- ・「モード横断的な取り組みに対する支援の強化を図る」こと
- ・陳情的ではない「裏づけのある」利用促進にインセンティブを与えること
- ・「利用者の増加や減少の歯止め等の成果を支援の採択に反映させる」こと

追加すべき項目：地域協議会の方針にあげられたものを優先すること

利用者のつくる電車・バスマップ「のりのりマップ」、電車・バス時刻表「ばすでんしゃねっと・ふくい」の改訂、維持管理費用の支援(国の支援による全国展開が必要)

すまいるトラムによる相互乗り入れによる、複数の事業者の枠を超えた公共交通の再構築

公共交通優先信号、右折信号による、総合的な交通渋滞緩和施策

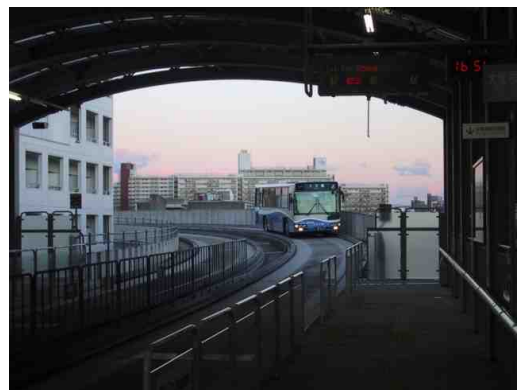
その他：利用者の視点をもっと重視した施策を！
公共交通の優先性の基本合意と日常での具体的な実行を(行政、住民)！ 鉄道等公共交通への積極的な公共投資を！

<アフターヒアリング>

夕暮れまでに時間を惜しんで、磁気浮上式リニアモーター「リニモ」の藤が丘へ、地下で工事のため駅の上屋工事だけ。気を取り直して、ガイドウェイバス「ゆとりーとライン」の矢田橋から大曽根までを試乗？ システムの良し悪しは別として、乗り心地は微妙な曲がり部分でカクッとずれるような感覚でさほど良くない普通のバス。OZモールもさびれて？寒い。

「リニモ」<http://www.linimo.jp/>、

「ゆとりーとライン」<http://www.guideway.co.jp/>



050116 のりのりマップ 大安寺小学校へいく(その1) 報告者 高橋 八州太郎
平成17年1月16日 畑さんと一緒に総合学習の一貫として行われた授業に参加しました。
大安寺小学校は一つの施設で低層部に小学校、上層部に中学校が配置されており、いずれも単学級
です。今回、総合学習をさせていただいた小学6年は、生徒数11名 男子8名 女子3名のコンパクト
なクラスでした。

担任の先生は渡辺先生は、前任地が豊小学校のときにはやし(ひ)さんに総合学習を受け持ってくれたこ
とがあり、既に外部の講師を呼んで総合学習をすることを体験しておられる先生でした。

今回の総合学習は2部構成となっており、最初の日(1月16日)は、マップの作られた背景とマップの使
い方を学び、2回目の1月26日には実際にバスに乗って町の中心部に行くという計画です。

渡辺先生からROBAの会の紹介をいただいた後に畑さんからは、既に配布されていた折っていない地
図を広げて、今回のマップづくりの背景やマップの特色などを説明した。その後、実際にマップを折りこんで
いく作業にはいりました。

このマップはとても親切である。マップの内容はもちろんのこと、折り方がきちんとわかるように気配りされてい
ることに改めて気がつきました。山折り、谷折りの表示がある、折ったときの図柄の説明図が書かれていた
ので比較的わかりやすいマップ実際にはじめて説明をするときにも楽にでした。



地図の見方を説明する渡辺先生



全体説明をする畑副会長

とにかく、悪戦苦闘しながら何とか、地図を織り込むことができると、次は来週の視察のためのプランニング
です。

先生が、9時半に福井駅に着きたいが、何時にどこに乗ればよいかを皆に問いました。あらかじめ、配布さ
れた、時刻表をもとにみな真剣です。さて、出発は決定。8時36分、福井駅前行き 15系統でいくこと
が確認された。

そして、国際交流会館 養孝館 福井歴史資料博物館を見て12時発のバスで大安寺小に戻る
というルートになりました。1月26日の子供版バス乗車ミニ社会実験が楽しみです。

この時機は卒業まじかという時節柄比較的ゆったりした雰囲気でした。

現実にここの地域の子供たちは、子供同士で学区以外に出てはいけないという決まりがあるそうな。

地図をみてまず自分の学校の位置を確認。中心市街地からは外れるので県内版で位置を確認。
そして、目指すは国際交流会館です。どこを通るか、中央公園を突き抜けるか、放送会館前からどのル
ートを通っていくかを班ごとに【3つの班】で検討。1分間で80m歩けるので、何分かかかるかを皆計算しまし
た。「バス停から10分でいきます」と元気な声で答える男子児童。このころは、女の子より男のこの方が無

邪気だなと感じた。(人数も多いせいもあるが)

今度は帰る時間の設定です。またも、定規で距離を測り、計算して、約1cm多いから15分くらいみておけば大丈夫だよ。と誰かが答えた。とにかく、1月26日の時間帯が決まりました。

ここで私から簡単なクイズを出した。例えばすまいるバスの名前の由来とか、信号の色の配置の順番など、ごく日常にあるものを題材にして行いました。少しでも公共交通への理解が深まればという気からです。最後に、畑さんから路面電車に乗ったことがある人との質問に1人だけが乗ったことがあると答えただけで殆どの生徒が乗っていないことがわかった。床の低い電車が福井に来るのでみんなで使って欲しいとアピールをしました。

そんなこんなで10時40分から始まった総合学習も12時20分に無事終了した。



真剣な面持ちで聞く児童たち



一生懸命に地図を折り込んでいる男子児童



一生懸命に地図を折り込んでいる女子児童

第 27 回まちづくり懇談会の報告

日 時：平成 17 年 1 月 19 日（水）19:00～21:00

場 所：サラダボウル（ガレリア元町）

参加者：ROBA/畑、高橋、堤端、内田 まちなか NPO/永井、村北、古市 コラボ NPO/牧野
その他/四ツ井

議 題

商業地区の駐輪禁止区域について

- ・基本的に、駅前商店街地域は駐輪禁止とし、駐輪可能な場所を小規模で分散させて決める。決定にあたっては、商店街と連携をはかる。
- ・不法に長く駐輪してある自転車については厳しく取り締まり、早期の撤去を検討する。
- ・この地区では、来街者の駐輪場を確保するものであり、通勤通学のための長時間駐輪は認めない。
- ・そのために、ターミナル付近に便利な上屋付きの駐輪場を設置する。（後述）

商業地区の駐輪場について

駅前電車通り

- ・歩道は自転車走行不可とし、歩行者を優先する。
- ・荷捌きスペース等で歩道の確保が充分でない場所を除き、歩道の空きスペースを活用して、小規模駐輪場を設置する。
- ・駐輪場の表示は工夫を凝らし、デザイン性を持たせる。

アップルロード、ガレリア元町

- ・小規模分散型の駐輪場を設置する。商店街の自主性をもとに場所を決める。
- ・アップルロードには西武専用の駐輪場以外に公共的な小規模駐輪場を設ける。
- ・北の庄通りは駐輪はあまりないようなので、今回は考慮しない。
- ・駐輪場の表示は工夫を凝らし、デザイン性を持たせる。

ターミナル用の駐輪場

- ・駅前用の駐輪場は北通り建設予定の大規模駐輪場だけでなく、南通り側にも中規模の駐輪場を設置する。
- ・織協ビルのバスターミナル用に専用駐輪場を設置する。

駐輪のルールは私達でつくり私たちが守ることを原則とし、駐輪場以外の駐輪ができない環境整備をしていく。

【次回開催】

日時：2月 16 日（水）場所：サラダボウル 19:00～21:00

議題：上記決定事項について、詳細を詰める。本懇談会で承認をとり、行政との打合せたたき台とする。

次回は福井市総合交通課から参加を頂く予定。

（内田）

「公共交通をよくする富山の会」から相談がありましたシンポジウム開催の相談会に参加してきました。内容を報告いたします。

開催日：平成 17 年 1 月 22 日（土）14:00～16:00

場 所：富山市民交流センター（CiC ビル 3 F）

議 題：北陸連携の公共交通シンポジウム開催について

参加者：公共交通をよくする会・渡辺、酒井、岡本（RACDA 高岡会員）

明日の金沢の交通を考える市民会議・山崎、五十嵐

富山のバリアフリー関係の市民団体・宮下

国労・南、山田、山口、ほか 1 名

ROBA・内田

7 月 23 日～24 日に交通権学会が富山で大会が開催されるので 23 日をシンポジウムとして、北陸連携で開催できないか。

日時：7 月 23 日（土）午後

場所：いきいき KAN ホール（富山駅前 CiC 5 F）

北陸新幹線が金沢開業が決まり、福井以西も進みつつあるなか平行在来線の 3 セク移行も決定している。この機に公共交通をもう一度見つめなおし、車社会から脱却し、環境に優しく生活に密着した公共交通を考えてみましょう、という視点のシンポ。

折りしも、富山港線の路面電車化、万葉線の活性化、福井鉄道とえちぜん鉄道の問題や金沢のバス交通のありかた等結節や路線の活かし方で課題がある。クルマ中心の社会である北陸地域の連携により今後の活動に何かヒントが得られるのではないかまた、市民団体の今後の継続的な連携をはかる。

参加団体をさらに広く呼びかけていく

- ・上岡さんルート
- ・交通権学会ルート
- ・路面電車支援団体ルート
- ・北陸地域ルート
- ・JR のルート
- ・しなの鉄道、青い森鉄道、IGR いわて銀河鉄道
肥薩おれんじ鉄道ルート、

行政との連携

- ・富山県、富山市、高岡市などの後援

ROBA の立場

開催にあたって、いくつかの要望を述べ（下記）

- ・単なる要求要望に終わらない
- ・まちづくりの視点を忘れずに
- ・つないで生きるという考え方
- ・生活交通としてどうあるべきかという観点
- ・行政との協働

正式な参加は持ち帰り組織で議論する。

（内田）

ザ・タイムリーふくい(福井テレビ)の収録に行ってきました。

新幹線と福井駅を契機にした中心市街地を考えるシリーズの予告編みたいな構成のため、今回はテーマが広く、掘り下げた議論にはなりませんでした。後から振り返るとキャスターの高橋さんは気を利かして振ってくれていましたが一般論みたいなコメントを返してしまい切れ味イマイチだったかも。チャレンジショップ卒業生の荒川さんに負けてますね。

また、今後のシリーズの中で富山や熊本、鹿児島の紹介も是非やりましょうとのことでした。(佐藤)

ザ・タイムリーふくい「県都福井と都市間競争」

<パネリスト>

佐藤 弘之(ROBA)

荒川 敬子(リフレクソロジスト/けいこ屋)

野嶋 慎二(福井大学助教授)

野田 富久(福井県議)

福井テレビ(39ch)

放送 1/15 10:00~11:00

再放送 1/17 25:10~26:10

ザ・タイムリーふくいをみでの感想

まず、このテレビを観て思ったことは、私達の団体が「路面電車」のことだけではなく、「まちづくり」の方面のことにも意見を求められる時期が来たんだという実感でした。

『名は体を表わす』との格言とおり、「ふくい路面電車とまちづくりの会」は“路面電車”にも“まちづくり”にも一目置かれる存在となりました。それだけに、私達の活動にも期待と注目があたることは日を見るより明らかです。

さて、今回の出席者の構成をよくみると荒川さんを除いた3人が、『ROBAの会』の会員です。さすが、テレビではそのような発言はされませんでした。佐藤さんお疲れ様でした。(高橋)

作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「発刊3周年記念パーティーはありません」

清水(副編集長)

「福鉄旧本社を古き良き『武生』博物館に・・・」

川口(副編集長)

「修論提出まであとすこし」

内田(発行責任者)

「いよいよ、福鉄に低床電車だ！」

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>